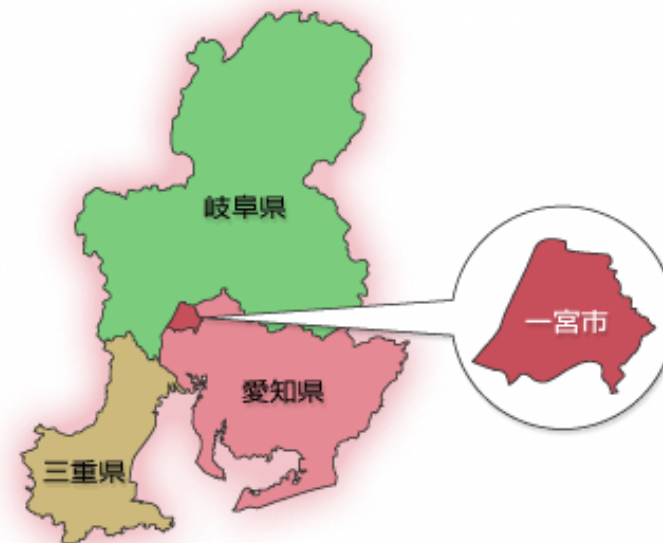
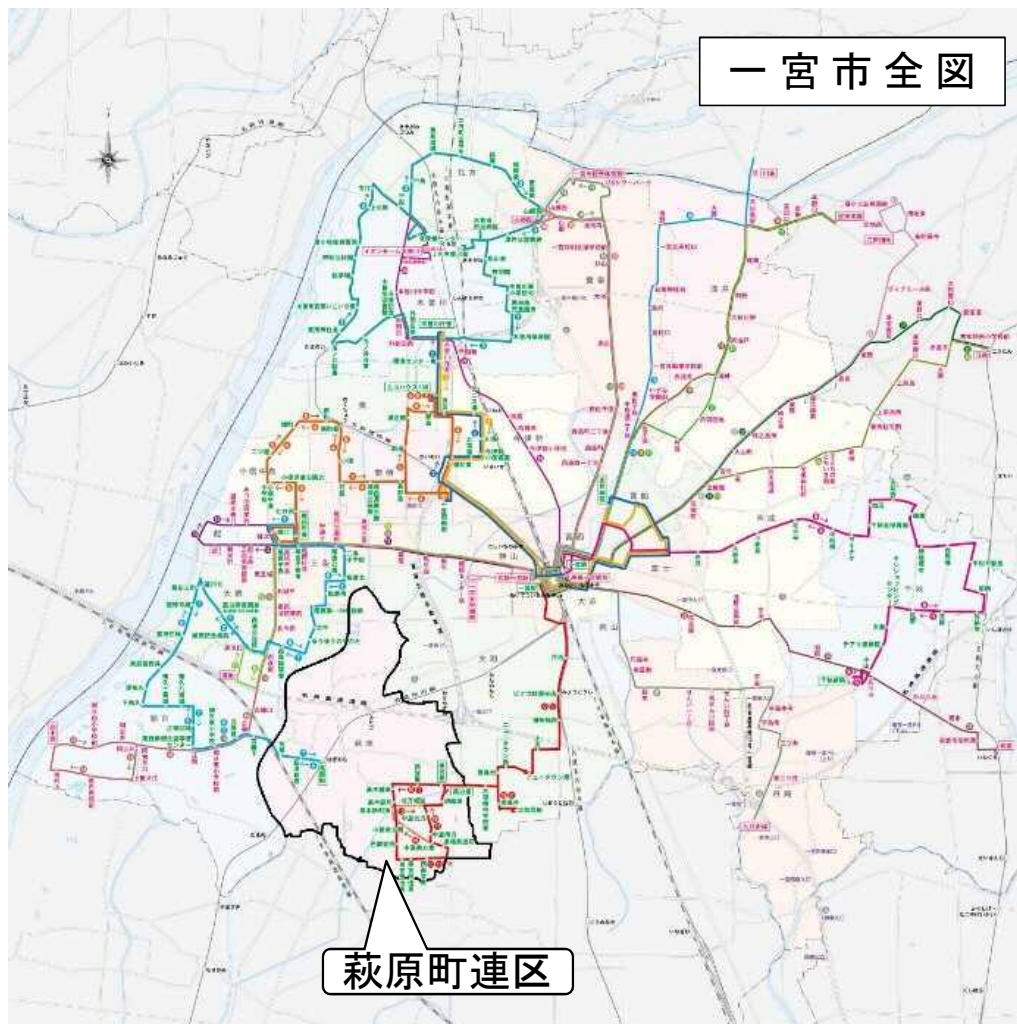


**萩原町連区地域活性化
「ニコニコふれあいバス」利用促進事業**

**愛知県一宮市
萩原町連区交通協議会**

はじめに



一宮市
人口 386,146人
世帯数 157,749世帯
(H29. 10. 1現在)

名古屋市と岐阜市の中間にあって、木曽の清流と温和な気候、風土に恵まれた平坦地となっています

萩原町連区の概要



- 市南西部に位置
- 人口 18,761人
世帯数 7,501世帯 (H29.10.1現在)
- 萩原町の中心部付近には名鉄電車尾西線が運行しています。



萩原町中心部の商店街では、毎年5月と10月にチンドン祭が開催され、全国からチンドンマンが結集し、商店街を練り歩きます。また、会場では各チームが独創的なアイデアで競い合うコンクールが盛大に開催され、見物客を楽しませてくれます。

◎ニコニコふれあいバス運行までの経緯

萩原町の東部地域には、かつて路線バスが運行していたが、平成12年に廃線となり、公共交通手段の無い地域となる。



私たちは、地域の将来を「子供からお年寄りまで暮らしやすい地域にしたい」と思い、自動車に過度な依存をせず、環境にやさしい交通手段は何かと考えた結果、バス導入を検討。平成18年9月に「萩原町連区交通協議会」を立ち上げ、バスの運行について勉強会を開催し、その後、バス導入の協議を開始。



運行コースや時間等を地域住民の協議により決定し、平成19年11月から市と地域との協働で初めて運行開始。

(1) バス運行までの準備

活動の原点

平成18年9月、バス路線沿線の町内会の町会長を中心に萩原町連区交通協議会を結成。住民の要望・意見を取り入れ、住民の生活を守る「生活交通バス」として導入することを目標に活動開始。

はじめに、地域にとって最も良いバスのルートやバス停の位置、運行ダイヤなどについて、協議をはじめ。ところが……



住民は、行政に対して一方的に要望の実現を要求する経験しかなく、バスの運行・存続をさせるための活動の必要性を共通認識できない。



話し合いを重ねた結果、この地区を二度と陸の孤島のようにしてはならないという強い決意が共通認識として生まれ、活動の原点となる。

運行までの活動内容

1年後のバス運行を目指し活動をはじめました。運行を開始するまでには協議内容が多岐にわたるため、毎月協議会を開催し、協議を重ねました。

委員を下記の3部会に分けて話し合いを深め、その部会の協議結果をもとに、協議会全体で協議を重ね、決定しました。

協賛募集部

・・・募集基準の決定、地域の協賛募集

広報・宣伝部

・・・バス車両の色・愛称、出発式の式典
祝賀会・バザー開催、地域啓発

バス停部

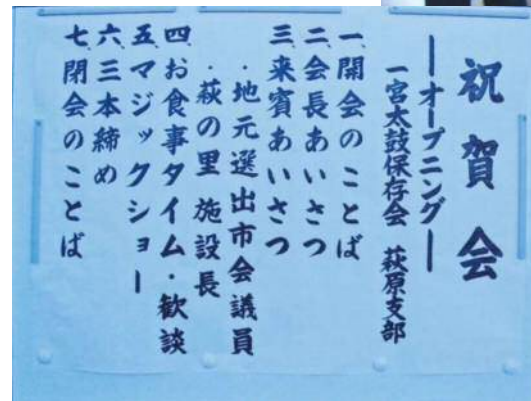
・・・バス停の仕様・掲示ポスター、時刻表、
バス停周辺の美化活動



(2) バス運行後の取組(利用促進)

出発式・祝賀会

平成19年10月28日(日)に出発式を行いました。出発式の後、協議会主催の祝賀会を開催しました。当日は晴天に恵まれ、大勢の方が集まっていたいただきました。マジックショーなどを鑑賞していただき、最後は待望のバスの運行を祝うとともに、バスの存続と発展を参加者全員で誓いました。



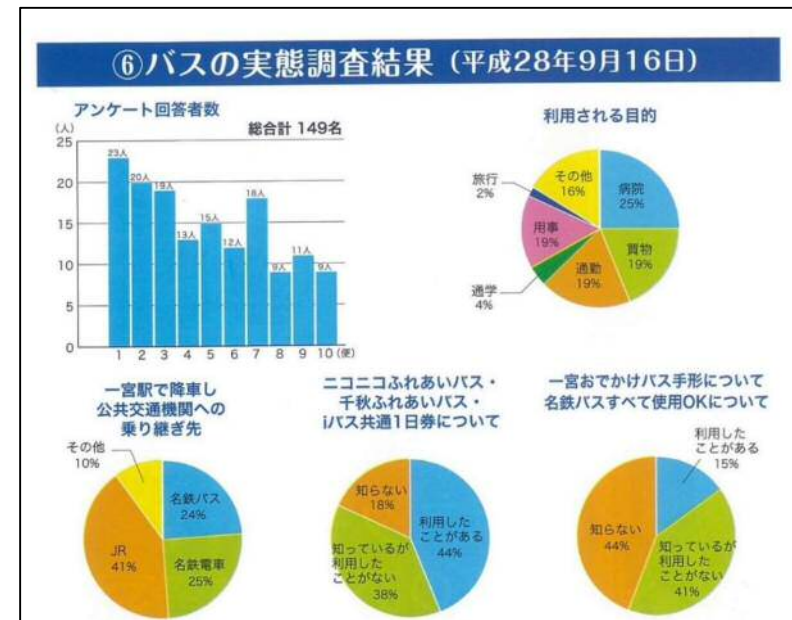
地域企業による協力

協議会委員自らが地域の企業を訪問し、約15社からバスの運行に対する温かい協賛をいただき、地域住民と企業が一体となってバスを支える活動を現在も続けています。



実態調査(アンケート)の実施

実態調査は、平成22年度から交通協議会の活動として取り組んできました。年に1日、委員全員が全ての便に乗車し、利用者からバスの利用目的や行き先・意見等についてアンケート調査を行っています。その調査結果をもとに、問題点や改善策を協議会で協議し、より良い運行ができるよう見直しを行っています。



記念感謝デーの開催

ニコニコふれあいバス記念感謝デーを、毎年10月の最終日曜日に開催しています。記念感謝デーは、地域の方々のバスに対する意識を高め、利用促進を図ると共に、バスを通じた地域の結びつきを強める場ともなっています。10周年の節目にあたる今年は、協賛企業に対する感謝状に加え、これまでボランティアなどで協力いただいた方にも感謝状を贈呈し謝意を伝えました。



感謝状の贈呈



会場での利用啓発

記念感謝デーの開催

当日は式典のほか、ボランティアによる地域の皆様のご協力により様々な催しを行っています。ステージでは和太鼓やミュージカル、会場ではバザーや風船つりなどのゲームのほかにお餅などをふるまいます。



会場風景

バスを利用した「史跡めぐり」

平成24年度から平成27年度まで、ニコニコふれあいバスのコース沿線にある史跡を訪ねる「史跡めぐりツアー」を実施し、バスを活用した利用促進の取組も行いました。このツアーのため期間限定で発売された「1日乗車券」は、その後、常時発売されるようになり、新たな利用促進につながっています。

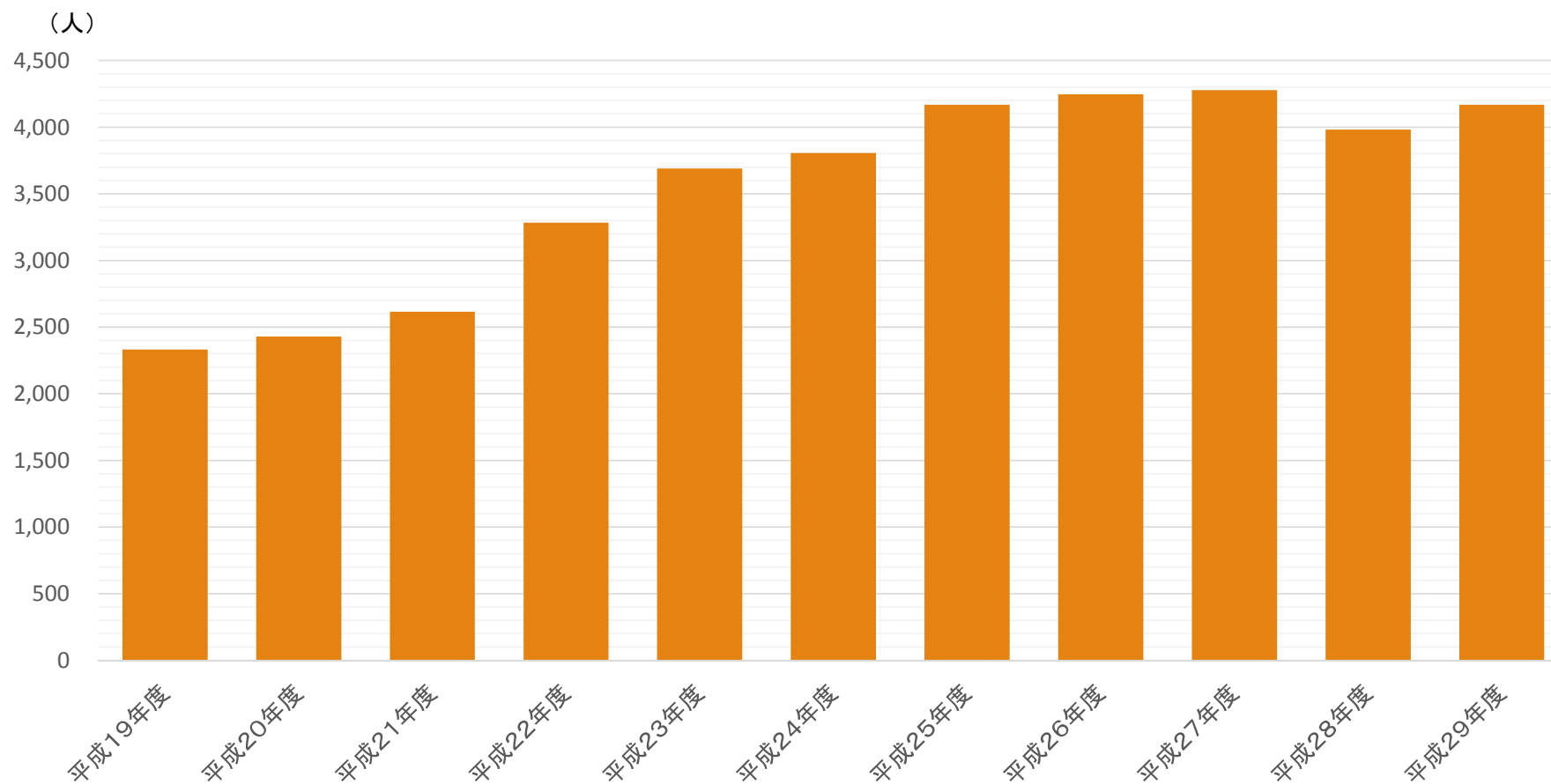


ツアーの様子

(3) 事業の効果

- 路線バスの廃線により、公共交通手段の無い地域でしたが、地域の交通手段として「ニコニコふれあいバス」が運行され、自動車がなくても外出できるようになった。
 - 記念感謝デーは地域コミュニティづくりにもつながっており、今や地域には欠かせない大切な場として定着し、地域の活性化にも寄与した。
- 継続的な利用促進により、利用者は年々増加。月平均利用者数は、平成19年度の2,332人から、平成29年度9月現在では4,169人と、この10年間で1.8倍に利用者が増加した。

ニコニコふれあいバス 月平均利用者数の推移



(4) 今後の課題

- 地域の方の認知度は上がってきてはいるものの、まだ、地域の中で運
- 行コースやダイヤを知らない人がいる。効果的な周知方法などを検討し、バスへの関心を高めることが必要。
 - 運行のコースやダイヤに対し、いろいろな要望をいただいております、地域にとってより良いバスになるよう検討が必要。
 - 10年が経過し活動がマンネリ化していないか、再確認が必要。



(5) 今後の展開

バスの運行を通じて、地域・事業者・行政と連携・協働しながら、利用促進を積極的に行うことが、地球温暖化や交通事故、地域住民の健康などの問題に取り組むことになり、「エコモビリティライフ」活動の普及につながっていくと思います。



ご清聴ありがとうございました。